



アカデミーかわら版

酒井抱一「四季花鳥図巻」より構成

2024年度後期講座が始まりました！

超える皆さまに受講いただいております。

今期の主な特徴は次のとおりです。

- ① 20講座でオンライン併用
- ② 12講座で野外学習
- ③ 川崎市市制100周年を応援する5講座・1WS
- ④ 映像・メディア講座と連携（アジア航測）講座の復活

10月下旬から始まる短期集中講座や、追加募集中の講座がまだまだ多くあります。ご検討ください。

また、知人・友人の方々にお勧めください。

追加募集中の講座・WSはこちら



9月まで続いた猛暑の夏も漸く終わり、2024年度後期講座が始まりました。

コーディネーター・講師の先生方のご尽力により充実した51の講座・ワークショップが準備されており、延べ2,600名を



🔔 2024年度のフェスタと受講生のつどいはお休みします！

単回受講へのお誘い

昨年後期に試行的に実施し好評を得た「単回受講」ですが、今期はさらに対象を広げて試行実施いたします。昨年は「同一講座1コマ限りの受講」との制限を設けましたが、今回はその制限をなくします。また一部のWSもエントリーの対象とします。

気になっていたけれど日程的に全部は受講できず申し込めなかったとか、来期受講してみたいけれどもまずは一度覗いてみたいなどとお考えの方、是非ご利用ください。

原則12～1月に開催される講座WSが対象となります。具体的な対象講座は近々お届けする単回受講のパンフレットをご覧ください。昨年は20講座にエントリー頂きましたが、今期はさらに増え30近くの講座とWSがエントリーされる予定です。

アカデミーの受講生の方は勿論、まだ受講したことがない方も大歓迎です。お友達をお誘いください。

(事業推進部会)

受講料等のお支払いは口座振替で！

2025年度前期から、受講生の利便性向上とアカデミー事務局の事務負担軽減を図るため、受講料等の口座振替制度を導入します。口座振替は、受講生がお持ちの預金口座（すべての金融機関で可）から、前後期の年2回、受講料等を自動引落しする制度です。

「預金口座振替依頼書」に必要事項を記載の上、2024年11月末日までにご提出ください。2025年度前期受講の有無が未定の場合でも、金融機関への確認手続きに時間を要しますので期限までにご提出ください。詳細については「受講料等の預金口座振替について」(HP掲載)をご覧ください。(総務部会)

2024年度前期 運営代表世話人会議報告

8月1日、代表世話人・世話人、学長、理事・参与および事務局員計48名が参集し開催されました。

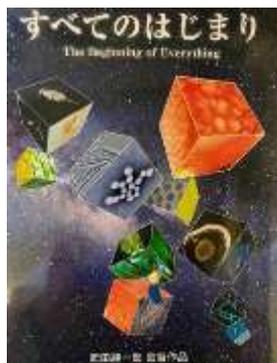
第1部では、まず現在の経営状況の説明がありました。前期の収支差額実績は7百万円を超える赤字でしたが、この4月の受講料等の改定により、今期は4百万円程度の黒字が見込まれること、今後も持続可能なアカデミーを目指し、制度・体制を再構築する事業構造の見直しや、現在の受講生規模を維持すべく広報力を強化するとの方針が示されました。次に2025年度導入予定の「受講料振替制度」の説明があり（1面に関連記事）、続いて「講座WS個別収支試算」について説明がありました。

「全体の収支は示されているが、個々の講座やWSの収支がどうなっているか知りたい」という世話人の声に呼応したものです。受講料や講師謝礼などの直接収支に加えて、アカデミー全体の運営に掛かる間接経費を各講座WSに配賦する手法を模索中ですが、今回は受講人数に比例した配賦基準を採用した場合の試算を、お示ししました。引き続きより適切な配賦基準を検討して参ります。なおこの個別収支をもって改廃基準とするといった短絡的な発想は持っていません。特にアカデミーの「心髄」とも言えるWSについては採算を越えた基準が重要と考えています。

第2部では、まず近時発生している、一部受講生からの事務局員に対する理不尽なクレームや言動・不当要求行為など、いわゆるハラスメント行為を防止する対策として、受講生の権利と義務を整理した「受講生規約(仮称)」を制定することについて、意見交換を行いました。「そんなことが起きているのか」「すぐにでも対策を」とのご意見やお示した条文についての手直し提案などが寄せられました。続いて受講生の皆さんの口から頻繁に出される「会員制度が分かりにくい」「会員って何なの」という声にお応えできるよう、NPOでは現在「会員制度の明確化」を目指していますが、その検討状況をお示し、ご意見をお伺いしました。「会員」と「非会員」を分けるキーを何に求めるのが適切なのか、アカデミーの運営に協力する意思の有無がキーになり得るのかなど様々なご意見が出され、会議終了後もメールにての意見交換が活発に行われました。

(事業推進部会)

”ドームの中に広がる美しい生命”



8月3日生涯学習プラザ4階にドームを設置し、「すべての始まり」「いのちの始まり」2本のビデオ鑑賞会をおもしろ実験クラブ主催で行いました。ドームの中で映像の美しさと細胞に包まれているような錯覚に襲われる立体的な映像を堪能していただきました。

参加者は小中高校生とアカデミー受講生の49名で、機会があれば別の映像も見てみたいなど多くのご意見もいただいています。本映像は科学映画製作を専門とする株式会社アイカムにご協力いただいたもので、CGではない実写が基本の迫力ある映像でした。

(おもしろ実験クラブ 代表世話人富本直一)



❖❖ ご寄附のお願い ❖❖

ご寄附は将来を見据え、安定したアカデミーの運営につなげるように使います。

寄附金 1口 1,000円
(口数の上限はございません)

※ 問合せ先：
かわさき市民アカデミー事務局
電話 044-733-5590

なかはらっば祭りで体験教室を出展

7月14日、中原市民館で開催された「なかはらっば祭り」に、受講生が中心となり、①鉛筆を使った燃料電池/発電体験、②シュワシュワ入浴剤、③バルーンアートの3つのグループが出展しました。



子どもたちが行列をつくり大盛況でした。

(芦澤康夫)



『あなたのイチ推し本』に 選ばれました！

川崎学や環境とみどり、短期集中講座などで出講いただいている中川洋先生の著書『産業遺産でめぐる川崎の鉄道史』川崎学双書シリーズ5(2023年3月発行)が市制100周年記念事業「川崎ゆかりの作品『あなたのイチ推し本』大募集!!」において選ばれ、書影つきで紹介されることになりました。中川先生も市民の皆さんに選んでもらえたことが何よりもうれしいとおっしゃっています。(西山 拓)



日本史夏季特別講座の報告



関幸彦先生

2024年8月7日から9月4日まで4回に渡り日本史夏季特別講座を開催しました。



遠山美都男先生

酷暑の時期にもかかわらず、延べ496人の方に受講いただきました。2回目以降は早々と定員に達し、



鈴木哲先生

キャンセル待ちの方が多くであるという状況でした。本講座は在来の日本史の枠と異なり新しい発想での切り口から「天皇・貴族・武士の都を旅する」と題し、専門研究者による大局的視点から考察した内容で4回に分けて実施しました。第1回と4回を関幸彦先生、第2回を遠山美都男先生、第3回を鈴木哲先生にお願いし、新しい視点での奈良、京都、鎌倉を旅していただきました。

今回大変好評でしたので、関先生より春季特別講座にて他の都を旅する企画を考えたいとのことをお話を伺っています。ぜひご期待願います。(日本史講座担当 阿部秀一)



サステナ・フォレスト ～森の国の守り人たち～

9月21日(土)、エポックなかはらで、ドキュメンタリ映画を上映し、川上敬二郎監督と「環境とみどり講座・ワークショップ」のコーディネーターを務める東京大学蔵治光一郎教授の対談を行いました。受講生と一般の方が100人を超えて参加。持続可能な森とは何だろう、という課題の理解を深める貴重な機会となりました。(芦澤康夫)



(公財) 東京応化科学技術振興財団助成事業



「第10回彩会展を終えて」

彩会展は、かわさき市民アカデミー、芸術ワークショップの受講生とOBの有志による絵画展です。展覧会は、毎年20数人が参加して、絵画50点程度が展示され、一週間程行われます。

お陰さまで、今年は記念すべき10回展となりました。講師の佐藤道子先生にも出品いただき、50号の油絵から5、6号程度の水彩画や日本画、墨彩画等々、また、モチーフも様々であり、各自、自由な発表の場となりました。

この場を借りて、出品者にご来場の皆さまに、お礼を申し上げます。彩会展準備委員会 村田 修

日時:2024年8月23日~28日
会場:中原市民ギャラリー

コーディネーターからひと言



伝統とは何かを考える・・・

日本の伝統芸能講座担当 森重行敏

市民アカデミーの担当をさせていただいて、すでに12年となりました。前任の竹内道敬先生は江戸時代の浄瑠璃研究の大家でいらっしゃるため、私のような者に務まるかといささか不安でしたが、関係する洗足学園音楽大学現代邦楽研究所の講師の皆さんのご協力も得て、楽しく続けさせていただいております。

「伝統」というと古いしきたりを守るものという考えがあるかと思えます。しかし、伝統とは「続いている」ことが前提で、そのためには変化も続けていることに注目していただきたいと思えます。歌舞伎はかつて照明のない暗い小屋で上演されていたからこそ、あの化粧法が生まれたのでしょう。千三百年もの歴史がある雅楽は、どんな時代も庶民から見れば雲の上の存在で、身近に感じられることはなかったはずで、ところが今や武満徹の新作が生まれ、正倉院に眠っていた楽器の復元なども盛んに行われています。伝統芸能には祖先から引き継いだDNAをもとに、時代ごとに変化し続けてきた

知恵も潜んでいます。

大学の恩師である小泉文夫先生は、日本音楽についての研究を深めるためにインドに留学されています。その教えに触れた私も、日本音楽とアジアの音楽への関心は同次元のものであるという考えに感化されました。そして



何より、音楽の発展は特殊な芸術家が生み出すものではなく、それを受け入れる民衆こそが主役だという信念も教えられました。

今、伝統芸能は危機的状況に直面しています。伝承者の減少、楽器の入手困難、観客の無関心などあらゆる面が指摘されています。しかし、私たち音楽や芸能を必要としないわけではありません。人は何のため歌い、踊るのかという疑問を持ち続けながら、様々な芸能にその答えを探ることは、大変興味深いことと言えます。今期はそうした「伝統」の意味をさらに違った角度から、歴史の裏側のエピソードやもう一つの視点に注目して進めて行こうと思っております。

NPO 法人かわさき市民アカデミー 初代事務局長 市川邦彦さんが 3月にご逝去されました

一般行政職の経験をフル活用して、NPOの黎明期に、文書管理、財政、労務、市や財団との接触、役員と事務局の役割分担など、あらゆる基礎を作ってくれました。厳しい局面で「ご苦労さんですね！」と言ってにこりとする姿が印象的でした。

市川さんありがとうございました。（西山拓）



認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー “NPO 会員募集”

NPOの活動の充実と発展には、多くの皆さまのご協力とご理解が必要です。

是非、NPO正会員にご加入いただき、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

問合せと NPO 正会員申込先：

☎044-733-5590

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報・地域連携部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F

電話 044-733-5590 HP はこちら↓

FAX 044-722-5761

問合せメールアドレス

info@kawasaki-c-academy.jp

https://kawasaki-c-academy.jp/



・・・新編集委員の紹介・・・

アカデミー事務局の清水です。今年の春から中川さんに代わり、久しぶりの編集委員になりました。私は主に体裁の方でお手伝いさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

